

授業科目：口腔解剖学

学修目標

形態とくにミクロの構造に視点を置いた研究活動を展開することを前提におき、立案し、論文にまとめ上げるというサイクルの中での科学的思考、論理に基づく手技、倫理を、論文等を中心とした実践的事例をもとに学び、身につける。

- 教科書： 指定しないが、教材となる資料を適宜配付する。
また、教材としての論文を指定するので、各自ダウンロードする。
第1学年次に各自が読んだ主要英文論文5編も教材とする。
- 参考書： 指定しないが、機会のあるたびに、紹介する。
- オフィスアワー： 磯川桂太郎 月曜日 12:00～13:00
鳥海 拓 月曜日 12:00～13:00
- 成績評価： 受講状況（出欠、質疑応答や討論への参加・積極性）と理解度、筆記試験で評価する。
- 注意事項： 教材とする（各自が読んだ）主要英文論文5編を提示出来ない場合は受講は欠格となる。
本年度は研究室事情で授業担当者が1名のみのため、以下日程が順延になることがある。
テーマ欄の「研究活動事例Ⅰ～Ⅲ」は授業進行状況により開催日を変更することがある。
授業を欠席する場合は、事前にその旨を担当宛にメール連絡すること。
- 準備学習： 資料や指示を適宜、メール等で配信するので、それに従って準備すること。
PDFの閲覧、パソコン等の使用やメール活用は院生の基本技能として対応可を前提とする。

授業日・担当者	テーマ	具体的内容
第1回 4月8日（水） 磯川 桂太郎	オリエンテーション	研究論文を入手、精読することは、研究目的の理解、実験の実施、論文作成、著作権遵守等に深く関わっており、研究者にとっての基本的な日常行為であることを学ぶ。
第2回 4月15日（水） 磯川 桂太郎	論文査読から学ぶⅠ	教材としてとくに形態系の手法とデータが含まれる論文の「査読前稿」及び「最終稿」を提供するので、これをもとに、セミナー形式で授業を進める。 1. 査読前原稿と最終稿とを精読する。 2. 両稿の差異を討議の下にリストアップする。 3. それらの差異をカテゴリー分類する。 4. 差異すなわち改善がなされた意図を討議する。 5. 最終稿に匹敵する/完成度の高い査読前稿の作成を可能にする方策について討議する。
第3回 4月22日（水） 磯川 桂太郎	論文査読から学ぶⅡ	
第4回 5月13日（水） 磯川 桂太郎	論文査読から学ぶⅢ	
第5回 5月20日（水） 磯川 桂太郎	論文査読から学ぶⅣ	
第6回 6月3日（水） 磯川 桂太郎	論文査読から学ぶⅤ	
第7回 6月10日（水） 磯川 桂太郎	論文読解を振り返るⅠ	受講者各自が第1学年で読んだ主要英文論文5編を教材とし、セミナー形式で授業を進める。
第8回 6月17日（水） 磯川 桂太郎	論文読解を振り返るⅡ	1. 主要5編の総括説明(ミニプレゼン)を行う。 2. 各自の研究課題&その進捗と、読んだ主要1編

授業日・担当者	テーマ	具体的内容
第9回 6月24日(水) 磯川 桂太郎	論文読解を振り返るⅢ	論文とを軸に各自(x 受講者人数)のプレゼンと討議を行い、問題点や課題の自覚あるいは受講者間での洗い出しを行う。 3. 現在進行形の各自の研究について、研究者倫理の視点、あるいは、発表時のバイラインについて討議する。
第10回 7月1日(水) 磯川 桂太郎	論文読解を振り返るⅣ	
第11回 7月8日(水) 磯川 桂太郎	論文読解を振り返るⅤ	
第12回 7月15日(水) 磯川 桂太郎	研究活動事例Ⅰ 骨格のパターン形成	基質形成と石灰化、形態形成、パターン形成の各視点から骨形成を捉え、外植体培養法による解析事例を学ぶ。
第13回 7月22日(水) 鳥海 拓	研究活動事例Ⅱ 幹細胞による組織再生	幹細胞の特性について学び、それを利用した組織再生、特に口腔領域での具体的な研究事例を紹介する。
第14回 7月29日(水) 磯川 桂太郎	研究活動事例Ⅲ 可倒歯と支持線維系	細胞外線維系を概括し、特に、弾性線維の形成と系統進化の関連、超微構造の種差、歯を支持する線維系の系統進化的な位置づけを考える。
第15回 8月5日(水) 磯川 桂太郎	筆答試験	受講内容について、論述式の筆答試験を実施する。